

スポーツ種目の性度に関する研究

市村 操 一・鈴木 博*

A Study on Sexuality of Sport

ICHIMURA Soichi, SUZUKI Hiroshi*

Sexuality of sports was rated on a dimension of "masculinity : femininity" by 174 university students and 62 junior high school teachers. Sports rated as extremely masculine sports were boxing, rugby, weight lifting, wrestling, baseball, and jump in skiing. Sports rated as feminine sports were synchronized swimming, figure skating, softball, tennis, diving, badminton, horse back riding, table tennis, and gymnastics. There was no major difference in rating between students and teachers.

スポーツ競技の多くは伝統的に男性的イメージと結びついていた。20年前には女性がフルマラソンを行うことは、その体力的限界から考えて無謀なことと考えられていた。現在では女性がマラソンを走ることには不自然さを感じる人は少ない。ゴルフでも経済的制約の変化や女性の自動車運転の普及などが、女性のやるスポーツとしてのゴルフの風景を大きく変化させた。都心から離れたリゾート地のゴルフ場で女性がゴルフをやることについての違和感を感じられなくなってきている。あるスポーツが男性的イメージを強くもつか、女性的イメージを強くもつかは、そのスポーツのもっている構造や機能に依存すると同時に社会におけるありかたの影響を強く受けている。

本研究は数あるスポーツ種目（ここでは40種目を取り上げた）が性と結びついているのどのようになっているかを、現在の時点で調べようとするものである。その目的はスポーツの性的開放の基礎資料を提供することである。Hartman-Tews (1994) はドイツ、イギリス、フランスの女性のスポーツ参加の実態を比較研究し、国によってスポーツ種目の女性への開放の水準が異なることを示している。また Ichimura & Naul (1992) は日

独の女性サッカーの比較研究のなかで、異なる文化において各スポーツ種目がどの程度に男性的と認知されているのか女性的と認知されているのかの程度を知ることが、女性スポーツの異文化間比較のための基礎資料として必要なことを強調した。本研究はこのような要請にも応えようとするものである。

方法

本研究の主たる方法は単純なものである。まず、スポーツ種目の名前を列記し、各種目に関して「男性的—女性的」の次元で評定をしてもらうことと、女性が実行するスポーツとして「自然—不自然」の次元で評定してもらうことである。評定には七段階のリッカートスケールを用いた。

評定の対象となったスポーツ種目は、偏りを少なくするために Rokusfalvi (1980) によるスポーツの分類学を基盤において、我が国で実行されているもの40種目を選んだ。

被験者は筑波大学体育学部の学生174名（男性115名、女性59名）、及び函館市の中学校教師62名（男性35名、女性27名）であった。体育学部の学生を被験者に選んだ理由は彼ら彼女らが多くのスポーツ種目をしていることと、それらのスポーツの選手をしていることによってスポーツと性

*北海道教育大学函館分校

に関する強い偏見から比較的自由でいられるのではないかと思ったからである。一方、教師の集団は学生よりは保守的であることが期待された。

調査期間は1995年4月から8月までの間である。

結 果

調査結果の平均値と標準偏差を示すと表1および表2のようになる。表1では数値が大きいほど

男性度が高く、数値の幅は3（極めて男性的）から-3（極めて女性的）の間に分布することになる。また、表2では女性の実行することの自然さを聞いた結果が示されており、数値の幅は3（極めて自然）から-3（極めて不自然）の間に分布するように表示されている。たとえば男子学生においてはボクシング (-1.99) を女性が実行するには最も不自然と評価し、シンクロナイズドスイミング (2.76) を最も自然と評価しているわけである。

表1 各スポーツ種目の性度（平均とSD）

種 目	学生（男性）	学生（女性）	教師（男性）	教師（女性）
1 ラグビー	2.95(.22)	2.90(.48)	2.86(.43)	2.85(.36)
2 サッカー	1.77(.86)	1.90(.90)	1.71(1.02)	1.15(.95)
3 バスケットボール	.63(.96)	.42(.81)	.74(.98)	.26(.66)
4 ハンドボール	.40(.92)	.37(1.02)	.89(.96)	.41(.69)
5 水球	1.71(1.07)	1.51(1.07)	1.60(1.14)	1.04(.98)
6 野球	2.20(.96)	2.24(.86)	1.80(.90)	1.48(.98)
7 バレーボール	-.31(.84)	-.47(.77)	-.23(1.00)	-.22(.51)
8 テニス	-.71(.94)	-.78(.95)	-.29(.83)	-.41(.80)
9 卓球	-.08(.59)	-.15(.66)	-.20(.58)	-.30(.67)
10 バドミントン	-.66(.94)	-.78(.93)	-.26(.95)	-.37(.79)
11 レスリング	2.30(.82)	2.39(.79)	2.11(.87)	1.56(1.01)
12 ボクシング	2.97(.18)	2.98(.13)	2.89(.40)	2.56(.80)
13 柔道	1.39(1.11)	1.17(1.05)	1.46(1.09)	1.04(1.06)
14 空手	1.90(1.09)	1.61(1.08)	1.86(1.03)	1.15(1.03)
15 フェンシング	.03(.87)	-.07(1.23)	-.06(.80)	-.22(.75)
16 スキー	.61(.88)	.56(1.05)	.77(1.00)	.19(.48)
17 フィギュアスケート	-2.14(1.07)	-2.10(.88)	-2.00(1.03)	-1.04(1.06)
18 ボート	1.52(1.11)	1.46(1.15)	1.06(1.00)	.93(1.00)
19 ヨット	1.37(1.04)	1.75(.99)	.69(1.05)	1.00(1.14)
20 体操	-.25(1.10)	-.42(1.00)	-.09(.82)	-.04(.44)
21 飛び込み	-.67(1.07)	-.46(1.25)	.23(.88)	.11(.85)
22 アーチェリー	-.17(.87)	-.05(.73)	-.14(.65)	-.11(.51)
23 射撃	.50(.96)	.54(.88)	.77(1.17)	.59(.89)
24 ボーリング	-.28(.67)	-.12(.49)	-.43(.81)	-.26(.53)
25 100m走	.80(.96)	.54(.79)	.31(.76)	0 (.28)
26 マラソン	.23(.68)	-.02(.66)	.29(.75)	.04(.65)
27 走り幅跳び	.60(.88)	.46(.75)	.20(.58)	.11(.42)
28 走り高飛び	.26(.84)	.25(.90)	.17(.51)	.07(.38)
29 競泳	.17(.53)	.08(.73)	.06(.59)	.04(.34)
30 槍投げ	1.42(1.03)	1.27(.94)	.69(.87)	.74(.94)
31 円盤投げ	1.38(1.10)	1.37(1.03)	.94(.91)	.74(1.02)
32 ゴルフ	.40(.76)	.54(.88)	-.14(.49)	.15(.36)
33 馬術	-.55(.91)	-.12(1.00)	-.20(.76)	-.11(.80)
34 重量挙げ	2.40(.88)	2.54(.70)	1.97(1.07)	2.00(1.00)
35 シンクロナイズドスイム	-2.80(.60)	-2.86(.43)	-2.51(.89)	-2.33(.96)
36 三段跳び	.97(.90)	.98(1.04)	1.11(1.08)	.52(.80)
37 ハンマー投げ	2.07(.98)	2.03(.87)	2.00(1.00)	1.78(1.19)
38 カヌー	.58(.85)	1.17(1.15)	.34(.68)	.44(.75)
39 ソフトボール	-1.24(1.09)	-1.31(1.12)	-.89(.96)	-.96(1.02)
40 スキーのジャンプ	2.15(.98)	2.27(.94)	2.14(.94)	1.89(.93)

男性的と評価されたスポーツ種目を評価値の高い順に6つづつ選びだしてみると、次のようになる。

学生男子では、ボクシング、ラグビー、重量挙げ、レスリング、野球、スキーのジャンプであった。この順位は学生女子では少し変化したが含まれている種目は変わりがなかった。教員男子でも種目には変わりはなかったがその順位はボクシング、ラグビー、スキーのジャンプ、レスリング、ハンマー投げ、重量挙げとなっている。教員女子

でも6種目は同じものである。ただ、順位が若干変わっている。

女性的なスポーツと評定された種目も、各標本群を通して共通しており、シンクロナイズドスイミング、フィギュアスケート、ソフトボール、テニス、飛び込み、バドミントン、馬術、バレーボール、卓球、体操などが女性的なスポーツであるとの評定を受けている。

スポーツを実行する自然さと不自然さについて

表2 女性のスポーツ参加の自然さ (平均とSD)

種目	学生(男性)	学生(女性)	教師(男性)	教師(女性)
1ラグビー	-1.87(1.52)	-1.57(1.57)	-1.09(1.80)	-1.15(1.52)
2サッカー	.70(1.61)	.68(1.64)	.14(1.91)	1.08(1.57)
3バスケットボール	2.46(.94)	2.34(1.17)	2.00(1.68)	2.54(.99)
4ハンドボール	2.16(1.11)	2.04(1.30)	1.83(1.58)	2.31(1.01)
5水球	.39(1.85)	1.15(1.67)	-.23(1.78)	.54(1.39)
6野球	.08(1.70)	.02(1.94)	.23(1.59)	.50(1.61)
7バレーボール	2.71(.69)	2.72(.77)	2.54(1.20)	2.73(.83)
8テニス	2.67(.84)	2.85(.51)	2.51(1.20)	2.73(.83)
9卓球	2.49(.82)	2.38(.95)	2.31(1.30)	2.73(.83)
10バドミントン	2.66(.70)	2.57(.80)	2.54(1.20)	2.73(.83)
11レスリング	-.04(1.89)	-1.02(1.96)	-.49(1.95)	.42(2.35)
12ボクシング	-1.99(1.55)	-2.04(1.28)	-1.89(1.59)	-1.12(1.66)
13柔道	1.28(1.57)	1.32(1.60)	1.06(1.81)	1.96(1.31)
14空手	.63(1.62)	.83(1.69)	.43(1.80)	1.50(1.58)
15フェンシング	1.59(1.26)	1.72(1.39)	1.94(1.35)	2.23(1.14)
16スキー	1.74(1.24)	1.62(1.74)	1.43(1.77)	2.35(1.09)
17フィギュアスケート	2.64(.95)	2.94(.32)	2.63(1.42)	2.73(.83)
18ボート	.24(1.88)	.26(1.71)	.91(1.62)	1.46(1.82)
19ヨット	.33(1.74)	.06(1.81)	1.26(1.60)	1.12(1.73)
20体操	2.51(.89)	2.51(.86)	2.51(1.15)	2.65(.85)
21飛び込み	2.36(1.21)	2.36(.85)	1.94(1.49)	2.38(1.13)
22アーチェリー	2.01(1.14)	1.91(1.30)	2.11(1.25)	2.46(.99)
23射撃	1.51(1.47)	1.57(1.63)	1.14(1.73)	2.08(1.29)
24ボーリング	2.25(1.02)	2.23(1.13)	2.40(1.19)	2.58(.86)
25100m走	2.18(1.14)	2.13(1.26)	2.51(1.12)	2.54(1.33)
26マラソン	2.24(1.11)	2.26(1.17)	2.20(1.23)	2.50(1.33)
27走り幅跳び	2.11(1.17)	1.91(1.35)	2.37(1.21)	2.54(1.33)
28走り高飛び	2.14(1.21)	2.15(1.25)	2.31(1.25)	2.54(1.33)
29競泳	2.28(1.07)	2.19(1.17)	2.46(1.22)	2.54(1.33)
30槍投げ	1.00(1.61)	1.34(1.68)	1.71(1.49)	2.19(1.50)
31円盤投げ	.79(1.78)	1.21(1.79)	1.51(1.63)	2.04(1.54)
32ゴルフ	2.32(.98)	2.11(1.43)	2.31(1.28)	2.65(.80)
33馬術	2.25(1.08)	2.04(1.60)	2.23(1.29)	2.27(1.28)
34重量挙げ	-1.37(1.97)	-1.15(1.98)	0(2.33)	.08(2.21)
35シンクロナイズドスイム	2.76(.65)	2.96(.20)	2.66(1.41)	2.77(.65)
36三段跳び	1.03(1.65)	1.02(1.75)	1.09(1.90)	1.35(1.81)
37ハンマー投げ	-.28(1.89)	-.15(1.92)	-.20(2.34)	.31(1.91)
38カヌー	.82(1.48)	.60(1.81)	1.54(1.48)	1.69(1.54)
39ソフトボール	2.41(.95)	2.30(.95)	2.40(1.22)	2.54(.90)
40スキーのジャンプ	-.62(1.98)	-.49(1.99)	-.51(2.05)	.15(1.93)

も男性被験者と女性被験者の意見の一致度は高い。

自然な種目としては、学生男子はシンクロナイズドスイミング、バレーボール、テニス、バドミントン、フィギュアスケート、体操をあげ、学生女子も同じ種目をあげている。

女性にとって不自然な種目としては、男子学生はボクシング、ラグビー、重量挙げ、スキーのジャンプ、ハンマー投げ、レスリングなどをあげている。学生女子も同じ種目をあげている。不自然な種目については教員の男女もここに示した種目をあげている。

教員男性から見て女性が実行するのが自然と評定できる種目はシンクロナイズドスイミング、フィギュアスケート、バレーボール、バドミントン、テニス、ソフトボールをあげ、女性はソフトボールの代わりに卓球をあげている。

考 察

40種目のスポーツについて「男性的」であることと「女性の実行の自然さ」の間の相関関係を求めると、学生の標本では相関係数は -0.86 となり、教員では -0.89 と高い値となる。このことは、女性にとって男性的なスポーツをすることは自然ではないという見方が強く存在していることを示している。この偏見の関係には少々複雑なところがある。全体としての相関とは別に、被験者は女性が男性的と思われる種目を実行しても、それを積極的に不自然であると主張するとは限らない。

例えば学生男子はラグビーを男性的なスポーツと考え、女性の参加を不自然と断定しているが、サッカーについては事情が異なってくる。サッカーも男性的なスポーツと見なされる(1.77)が、参加が不自然と断定されるとはかぎらない。自然であると賛成される度合いが低下するのみである(0.70)。このような関係は「サッカーは男のものだが、女性が参加するもの大目に見よう」といったような、許容幅のある評価ということができよう。スポーツ種目全体は男性文化としての色合いを持っていると認められているが、女性の参加もこれをこばまず、といった態度が現代の女性スポーツに対する態度であるとみることができであろう。同様な態度は槍投げにもみることができ。性度では1.42と男性的イメージの強いスポーツと評定されているが、それをやることの自然さ

は1.00であり、女性らしくないスポーツだという評定にはなっていない。ここに女性のスポーツに関する態度の二重構造をみるができるのかもしれない。あるスポーツを男性的と考えることはゆるされるとしても、それを女性がやることまで不自然と否定することは保守的に過ぎるという恐れが評定者の側に存在しているのかもしれない。それにしても二つの評定結果に高い相関がみられたことは興味深い事実である。

スポーツの性度の評定に関しては学生と教師という世代間の差は認められなかった。また、男女差についても大きな差は認められなかった。男性的なスポーツとしてあげられたものは大きなパワーを必要とするものであり、そのためには体型が標準的なものから離れざるを得ないようなものである(重量挙げ、ハンマー投げ)。その他の特徴としては激しい身体的攻撃であり、ラグビー、ボクシング、レスリングなどはこのカテゴリーに含まれる。男性的と評定されたスポーツはかつては実生活のなかで男性の性的役割を象徴するものであった。が、現代の日常生活のなかに活かされることはなくなってしまい、スポーツの場にのみその存在を許されているいわば非実用的な男性性のノスタルジックな活動が、強い男性性を持ったスポーツとして評定されているとみることができ。

一方、女性的なスポーツとして評定されたものの特徴は、美的な表現を採点されることであり、それらの種目にはシンクロナイズドスイミング、フィギュアスケート、体操、飛び込みなどが含まれている。技術の計量化だけではなく美しさの計量化がそこでは行われる。

球技で女性的と評定されたスポーツには攻撃と守備がネットをはさんでおこなわれるものが多く、テニス、バドミントン、バレーボール、卓球などが含まれている。身体的な接触の可能性のあるハンドボールやバスケットボールなどよりも、ネットで隔てられた球技の女性度が高いことは興味深いことである。深層心理学的解釈をするならば、女性には赤裸々な攻撃行動を表面化することは許されておらず、象徴的にはネットで隔てられた限界のなかでのみ許されていた歴史社会的な条件の痕跡がそこに見られるようである。

種目を陸上競技に絞って考察すると、比較的女性の参与の歴史の浅いマラソンが最も女性にとっ

て自然なスポーツと評定されている。これは、短い歴史のなかで数多くのスターがつくれ、マスコミを通しての社会への露出度が高かったためや、ファッション化や大衆化などの社会的要因が働いているためと考えられる。女性のスターの出現と、その種目の女性度の変化の関係も興味ある研究として残されるであろう。

引用文献

1) Hartmann-Tewa, I. 1994 Women's participa-

tion in sport, cross-cultural consistencies and variations. *Journal of Comparative Physical Education and Sport*, 16, 2, 42-49.

- 2) Ichimura, S. & Naul, R. 1991 Cross-cultural assessments and attributions to female soccer : Japan and West Germany. *Sport for all into the 90s*. 212-220. Meyer & Meyer.
- 3) Rokusfalvi, P. 1980 *Sportpsychologie*. Limpert.